



子育てをみんなで考えよう



学校教育課 課長 黒川 俊文

「ちゃんとした人」を育てる

スポーツ選手がパフォーマンスを向上させるには、科学的なトレーニングや実践的な経験を積んで、体力や技術を身に付ける必要があります。しかし優秀な指導者は、技術のノウハウだけでは選手は伸びないことがわかっています。まず競技に取り組む一人の競技者として、一流の人間性を身に付けないとパフォーマンスも伸びていきません。大谷翔平選手が高校生のころから大リーガーの夢を果たすために、目標達成シートを作成し、自身の人間性や態度まで細かく書き込んで実践していたことは有名です。このエピソードからも、大谷選手は自ら「非認知能力」を身に付ける努力をしてきたと言えるでしょう。

「認知能力」は、その子どもを評価する指標の一部ではありますが、それのみでその子どもの善し悪しを決めたり教育活動の成果を図ったりしてはいけません。子どものパフォーマンスを支える「非認知能力」を身に付けさせることで、「ちゃんとした人」を育てることが一番重要なことであることは大谷選手からもわかります。

キーワードは「連携」

栗東市は保幼小中が連携して、この「非認知能力」の育成に取り組みます。これまで学年での成長が次の学年や学校で生かされないことがあったために、0歳から15歳までをなだらかに成長させることができるように、「栗東子育て教育ビジョン」と「活用ガイドブック」を作成しました。さらに教育関係機関や保護者、地域、関係団体など、市全体で連携して取り組むことで、子どもに関わるあらゆる場面で「非認知能力」の育成を進めていく予定です。

次世代を担う人材＝「Next」を心豊かにたくましく育てるため、「栗東子育て教育 Next プロジェクト」を、一緒に進めていきましょう。

「非認知能力」って何？

今、注目されている「非認知能力」は、「難しい言葉でよくわからない」と感じる人が少なからずいると思います。具体的には、「自己認識」「意欲」「忍耐力」「自制心」「社会性」「対処能力」「創造性」といった、人間の気質や性格的な特徴のようなものです。学力テストなどで数値化できる「認知能力」と比べると、とても抽象的な概念であり、わかりにくく感じるのも仕方ありません。

しかしこの能力が、学歴、年収、雇用などの面で、子どもの人生の成功に長期的に因果関係を持ち、教育やトレーニングによって鍛えて伸ばせることが、これまでの研究で明らかになっています。

そもそも「教育の目的」とは？

教育の目標は「人格の完成をめざす」と規定されています。また文科省は、豊かな人間性や全人的な資質や能力を「生きる力」として、その育成を目標としています。「非認知能力」の育成は、全く新しい概念が登場したのではなく、「生きる力」をより具体的な能力として捉えているものであり、これまでの教育活動で育ててきたものと変わらないものです。特に幼児期の保育・教育に関わっては、これまでも重要視されており、いつの時代にも必要な普遍的な教育であることがわかります。

しかし学校における評価は、学力テストや偏差値といった「認知能力」が重視される傾向があります。もちろんこれも「生きる力」の重要な要素ですが、子どもの学力を向上させるためには、学習のハウツーだけでは難しく、基本的な生活習慣や学校生活、人間関係、自尊心などが大きく関わっていることは、全国学力・学習状況調査においても明らかにされています。

栗東歴史民俗博物館で ホンモノ の学びを



—旧中島家住宅を使った博物館教室「昔の暮らし」

収蔵資料を活用した体験、戦争関係の資料の活用など—

栗東歴史民俗博物館 学芸員 大西稔子



栗東歴史民俗博物館を知っていますか？

栗東歴史民俗博物館（以下、博物館）は栗東市立図書館のお隣、栗東自然観察の森など、社会教育施設が集中しているエリアにあります。開館して32年。本物に触れてもらえる博物館として活動しています。

また、敷地内には明治初期に建てられた農家住宅、旧中島家住宅（国の登録有形文化財）が移築されています。



博物館を活用して本物との出会いを

博物館では、学校での教科学習に活用していただけるプログラムを用意しています。特に小学校3年生社会科「市のようにとくらしのうつりかわり」の学習では、この単元に合わせた体験型プログラム、博物館教室「昔の暮らし」を実施しています。



このプログラムでは旧中島家住宅を活用し、住宅内部にあるかまどを使った火吹き体験や、雨戸を閉め暗くなった室内でランプの明かりを体験したり、石臼で大豆を挽くなど、本物（収蔵資料）を使った体験ができます。



旧中島家住宅内では、子どもたちがかまどから出る煙のにおいや煙を五感で感じることができます。

博物館教室「昔の暮らし」メモ

「市のようにとくらしのうつりかわり」の学習に対応した博物館教室「昔の暮らし」。そこで、栗東市の移り変わりについてみてみましょう。栗東市は昭和38年（1963）に



開業直後の栗東 IC。日本で最初に開通した高速道路の起点だった。（『うつりゆく栗東』（栗東町 1993年）より）

開業した名神高速道路 栗東-尼崎間の開通とそれに伴った栗東インターチェンジ（栗東 IC）の開業によってまちの産業は大きく変わりました。高度経済成長期という時代背景ともあいまって、くらしが近代化してきました。博物館教室「昔の暮らし」は、このころのくらしの変化を体験する学習になっています。



栗東市の市章はインターチェンジとともに発展するまちの姿をデザインしたものです。



国語科でも生活科、理科でも 活用の仕方は多種多様



博物館教室「昔の暮らし」に限らず、博物館にはさまざまな授業の場面で活用していただける資料があります。

例えば小学校 1 年生国語科の教科書に登場する「たぬきの糸車」は“キーカラカラ、キークルクル”と、狸が回す糸車の音が軽妙です。糸車は博物館の収蔵資料にあります。博物館と関係の深い栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会では、この収蔵資料を

もとに複製品を製作して

おり、会員のなかには糸車で糸を

紡ぐことができる方もあります。会員が糸を

紡ぐと教科書同様に“キーカラカラ、キークルクル”と音

が鳴ります。複製品だけを貸し出すことはされておりませんが、博物館に相談していただくと市民学芸員や取り扱うことができるスタッフが実演することが可能です。ぜひご活用ください。

綿は旧中島家住宅敷地内でも育てています。小学校 1 年生の生活科や小学校 3 年生理科の植物栽培、観察用に種を分けることもできます。



旧中島家住宅敷地内の綿の苗、ここから採れた綿の種もお分けすることができます。



平和学習にもぜひご活用を



博物館が開館以来取り組んできた、戦争関係資料の収集と展示もあり、小学校 6 年生の平和学習にも活用していただける実物の資料があります。ぜひ、博物館をご利用ください。



毎年開催している「平和のいしずえ」展の様子

太平洋戦争中の少年飛行兵募集のポスター 子どもたちの学びのきっかけに。館蔵資料にはこのようなものもあります。

栗東歴史民俗博物館

住所 滋賀県栗東市小野 223-8
TEL 077-554-2733 / FAX 077-554-2755
E-mail hakubutsukan@city.ritto.lg.jp
URL <http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>





自然を見つけても自然に触れて

大宝幼稚園分園

大宝幼稚園分園は栗東駅に近く、マンション等集合住宅がたくさん建つ中にあります。園庭に木々が生い茂ることもなく、一見、自然に触れて遊ぶことが難しいようにも思いますが、子ども達は、限られた環境の中であっても土、水、花、虫などに触れて、遊びの中でたくさんの自然体験を楽しんでいます。

園庭の端に設けた畑（おひさまファーム）に毎朝水やりをする5歳児。「おいものつるが伸びすぎて歩くところがないわー」と、どんどん伸びるつるを見て、育てているサツマイモの成長を喜ぶ声が聞こえます。築山では、土に水を加えて独特のどろどろ感を体感したり、友だちと集まって、夢中で穴を掘ったりする4歳児の姿も見られます。このように、見て、触れて、匂いをかいで、五感を使って自然に親しむ子ども達です。

自然が相手の遊びは、初めから「こうしたらこうなる」と決まっていることは少なく、遊ぶ中で何かを発見しそれに夢中になったり、不思議なことに気づいてどんどん遊びが広がったりします。「〇〇を作った」というように遊びに完成形がなくても、それぞれの遊びの途中（試しながらやってみたこと）がまさに学びそのものです。これからも自然を見つけて自然に親しんで遊ぶことを、大事にしていきたいです。



「主体的に学ぶ力を身につける」学校に

葉山中学校



本校は、めざす生徒像として「時を守り 場を清め 礼を正す 生徒 主体的に学ぶ力を身につける生徒」を掲げ日々の取り組みを進めています。

「主体的に学ぶ力」を高めるために、県の重点目標である「読み解く力」の育成について、特に「分析・整理」と「再構築」の力をいかにつけていくのかについて焦点を当てています。この部分に注目した理由としては、全国学力・学習状況調査結果からの課題となっていることもありますが、これからの「予測不能な社会」に飛び込んでいく子どもたちに、「情報」を自分なりに解釈し、自分の意見・思いを伝える力は大変重要だと考えているからです。昨年度に完了した大規模改修で各教室がホワイトボードとなりました。また、タブレットやICT機器の環境も整備され、これらを用いた「主体的な学び」への一層の工夫を重ねていこうとしています。

また、葉山中生の良いところは、何といても「素直さ」です。さまざまな生徒会活動についても、生徒が主体的に取り組んでいる様子が見られます。本当に「真剣に」、「笑顔で」活動する生徒が多いのですが、それを支えているのは「中学生らしい素直さ」だと感じています。この良さを活かしながら、よりよい葉山中学校を目指していきます。